

第7章

計画の推進

本章では、本計画を総合的に推進し実効性のあるものとするための庁内各部局はもとより市民、事業者や関係機関などと連携・協力していく体制や、施策の進捗状況を把握するための進行管理のあり方、ならびに第5章に示した進行管理のための指標を示します。

第1節 計画の推進体制

本計画を実効性のあるものとするためには、庁内各部局はもとより、市民、事業者や関係機関などとの連携・協力により、全体的・総合的な推進を図る必要があります。このため、以下に示す体制を整備するとともに、市民、事業者と協働して計画を推進するものとします。

(1) 庁内体制の整備

環境基本計画の施策の対象は広範囲に及ぶため、計画に定める施策の推進に際しては、関係部局間の連携・協力が不可欠です。

このため、計画の推進・進行管理に際しては、関係部局により組織された推進連絡体制を整備し、本計画の進行状況の把握、施策の点検・調整などを行います。

(2) 環境審議会への報告

本計画を推進していくためには、環境に関する専門的な知識のほか、環境行政全般にわたる広範囲な知識が必要です。

このため、本計画の進捗状況や目標の達成状況などについて、船橋市環境基本条例に基づき学識経験者、事業者代表、市民の代表などで構成された「環境審議会」に報告し、専門的かつ広範な見地から審議を行い、計画の点検・評価や環境行政への助言・提言などを求めていくものとします。

(3) 国や県、関係機関などとの連携・協力体制の強化

本計画に基づく施策を推進していく上で、国、県、隣接する自治体、関係機関などに対して要請や協力を求める場合が想定されます。

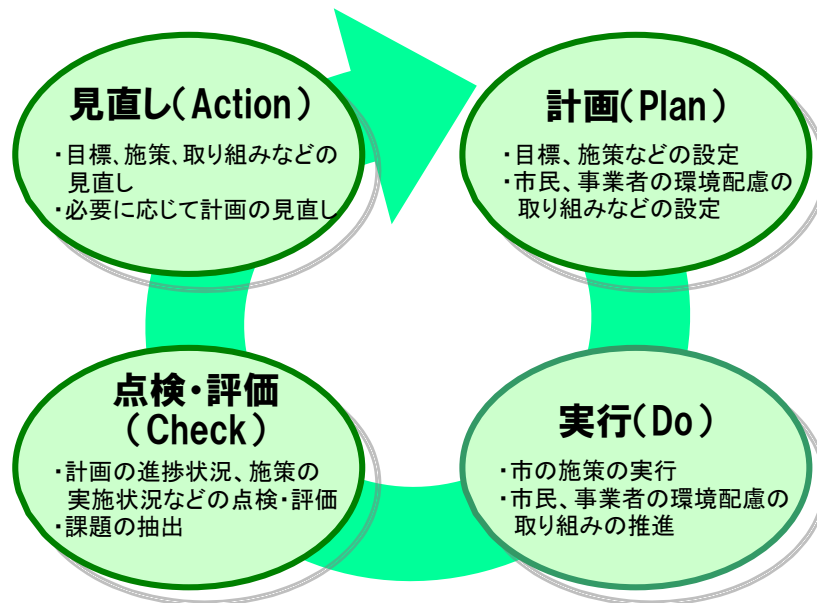
特に大気汚染や水質汚濁、地球温暖化問題、三番瀬の保全などについては、市域を超えた広域的な取り組みが必要であるため、今後も国、県、隣接する自治体、関係機関などとの連携・協力体制の強化に努めます。

第2節 計画の進行管理

(1) 計画の点検・評価

本計画の進捗状況について定期的に点検・評価を行うことにより、本市の環境について継続的な改善を図るものとします。

計画の進捗状況は、環境マネジメントシステムの考え方に基づく「PDCA サイクル」を用いて把握します。この方法は、①計画 (Plan)、②実行 (Do)、③点検・評価 (Check)、④見直し (Action) という手順を繰り返し行っていくことにより、その時点における計画の進捗状況の把握や課題の抽出などを行うものです。



(2) 点検・評価結果の報告

本計画の進捗状況は、庁内における推進連絡体制において調査・検討するとともに、「環境基本計画年次報告書」として、環境審議会に報告し、助言・提言などを求めていくものとします。年次報告では、計画の全体的な進捗状況、施策の実施状況、環境の改善状況などを踏まえて、目標の達成状況を点検・評価するとともに、評価の結果をもとに、施策や事業の見直しについて検討します。

年次報告の結果については、各年度の「船橋市の環境」としてホームページなどを通して市民、事業者に対して公表します。

(3) 環境情報の提供

市民、事業者、行政の連携・協働による環境保全の取り組みを進めるためには、環境に関する情報を共有し、現状や課題などについて共通の認識を持つことが必要です。このため、広報やホームページなどを積極的に活用し、市民、事業者に対して環境情報の提供を行います。

(4) 中間年における見直し

本計画については、上記(1)～(3)の確実な実行により、適切に進行管理するものとします。

また、施策の進行状況の点検・評価に基づき、中間年（平成 27 年度）に計画の見直しを行います。計画の見直しに際しては市民アンケート調査を実施し、環境配慮の取組状況等について把握します。

第3節 指標の活用

本市の環境の状況及び各種施策の進捗状況などを把握・評価するため、第5章で示した「進行管理指標」を活用します。

【安全な生活環境の保全】分野

大気環境の保全

進行管理指標	現 状 (平成 21 年度)	数値目標	
		中間年度 (平成 27 年度)	目標年度 (平成 32 年度)
市の公用車購入時における低公害車の占める割合 ★1	80.7%	100% (毎年度)	
市内幹線道路交差点での改良整備実績及び達成率 ★2	改良済、暫定改良済 計 23 箇所 51%	改良済、暫定改良済 計 27 箇所 60%	改良済、暫定改良済 計 30 箇所 66%
その他交差点での改良整備実績及び達成率 ★2	改良済、暫定改良済 計 19 箇所 79%	改良済、暫定改良済 計 20 箇所 83%	改良済、暫定改良済 計 24 箇所 100%
二酸化窒素の県環境目標値の達成率 ★3	70%	80%	100%
浮遊粒子状物質の環境基準の達成率 (長期的評価) ★3	一般局：100% 自排局：100%	一般局：100% 自排局：100%	一般局：100% 自排局：100%
VOC (揮発性有機化合物) 排出量	2,310t/年 ★4	1,617t/年	

- ★1 市の環境配慮物品調達方針で定める自動車で、環境に優しい低燃費かつ低排出ガス車です。ただし、特殊自動車などで低公害車に該当しない車両は除きます。
- ★2 市内幹線道路交差点での改良整備実績における対象交差点は、過去に行った交通量調査を基に交差点解析を行い、45箇所を対象としており、その他の主要な交差点においても24箇所を対象としております。
- ★3 第3章 (環境の現状と課題) の22ページの表3-1-1に平成21年度の大気汚染の環境基準達成状況について記載しております。
- ★4 VOCの削減割合は、「船橋市揮発性有機化合物の排出及び飛散の抑制のための取組の促進に関する条例」の対象事業者からの排出量を対象とし、削減割合の対象となる基準は平成12年度としていることから、現状値欄に平成12年度実績値を記載しております。

水環境の保全

進行管理指標	現 状 (平成 21 年度)	数値目標	
		中間年度 (平成 27 年度)	目標年度 (平成 32 年度)
排水規制に係る立入検査実施率 ★ 1	42%	43%	50%
BOD の環境基準達成率 (河川) ★ 2	100%	100%	100%
COD の環境基準達成率 (海域) ★ 3	75%	100%	100%
全窒素の環境基準達成率 (海域) ★ 3	50%	100%	100%
全りんの環境基準達成率 (海域) ★ 3	0%	100%	100%
透水性舗装の整備実績	累計 79, 398 m ²	累計 105, 198 m ²	累計 126, 698 m ²

★ 1 水質汚濁防止法に基づく特定事業場（湖沼法のみなし施設を有する事業場を含む：平成 21 年度末 537 事業場）を対象に行った立入検査の延べ事業場数。

第 3 章（環境の現状と課題）の 26 ページに平成 21 年度の立入検査結果について記載しております。

★ 2 調査地点については、利用目的等に応じて定められた類型指定されている河川を対象とします。

BOD の河川調査地点（下記 5 地点）

海老川 E 類型 八千代橋、さくら橋、八栄橋

真間川 E 類型 柳橋

桑納川 D 類型 金堀橋

第 3 章（環境の現状と課題）の 25 ページの図 3-1-6 に、海老川の八千代橋（E 類型の環境基準点）での水質調査結果（BOD）について記載しております。

★ 3 調査地点については、利用目的等に応じて定められた類型指定されている海域を対象とします。

COD の海域調査地点（下記 4 地点）

B 類型 船橋 2（船橋沖）、海苔漁場

C 類型 船橋 1（航路 A）、航路 C

全窒素、全りんの海域調査地点（下記 4 地点）

IV 類型 船橋 1（航路 A）、船橋 2（船橋沖）、航路 C、海苔漁場

第 3 章（環境の現状と課題）の 27 ページの図 3-1-7 に、船橋 1（航路 A）、船橋 2（船橋沖）での水質調査結果（COD）について記載しております。

身近な生活環境の保全

進行管理指標	現 状 (平成 21 年度)	数値目標	
		中間年度 (平成 27 年度)	目標年度 (平成 32 年度)
幹線道路に面する地域の騒音環境基準達成状況（昼夜間基準値以下） ★1	83.3%	達成率の向上（毎年度）	
公害苦情件数 ★2	28 件	減少させます（毎年度）	

- ★1 第3章（環境の現状と課題）の32ページの表3-1-4に平成21年度の幹線道路に面する地域の騒音環境基準達成状況について記載しております。
- ★2 典型7公害（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭）への公害苦情件数です。
第3章（環境の現状と課題）の36ページの図3-1-11に平成10～21年度の公害苦情件数の推移について記載しております。

【生物多様性の確保】分野

水辺と緑の保全

進行管理指標	現 状 (平成 21 年度)	数値目標	
		中間年度 (平成 27 年度)	目標年度 (平成 32 年度)
多自然川づくり改修延長	2,527m	5,110m	★

★ 多自然川づくり改修延長根拠（中間年度以降の数値目標は未定）

- ・二重川 2,410m
- ・木戸川 2,700m

樹林地・農地の保全

進行管理指標	現 状 ★ 2	数値目標	
		中間年度 (平成 27 年度)	目標年度 (平成 32 年度)
自然観察会等の参加延人数 ★ 1	841 人	900 人以上（毎年度）	

★ 1 自然観察会等の具体的内容

- ・環境保全課が実施する自然散策会、三番瀬生き物調べ、セミのぬけがら調査
- ・公民館で自然観察会に関する講座

★ 2 自然観察会等の参加延人数は、年度ごとに変動が大きいため、現状値は直近の過去3年の平均としております。

干潟の保全

進行管理指標	現 状	数値目標	
		中間年度 (平成 27 年度)	目標年度 (平成 32 年度)
三番瀬クリーンアップ参加延人数	1,100 人	1,100 人以上（毎年度）	
ガンカモ類の個体数 ★ 1	37,772 羽 ★ 2	2 万羽以上維持（毎年度）	
ミヤコドリの個体数 ★ 3	164 羽 ★ 4	100 羽以上維持（毎年度）	

★ 1 ラムサール条約の国際的な基準 5（定期的に2万羽以上の水鳥）を満たすものです。

★ 2 平成19年～22年の冬の観測（全国ガンカモ一斉調査）、3ヶ年の平均。

★ 3 ラムサール条約の国際的な基準 6（水鳥の1種または1亜種の個体群で、個体数の1%を満たすミヤコドリ100羽以上）を満たすものです。

★ 4 平成19年～22年の冬・春の観測（モニタリングサイト1000シギチドリ類調査）、3ヶ年の平均。

[快適な地域環境の保全] 分野

自然とふれあう場の確保

進行管理指標	現 状 (平成 21 年度)	数値目標	
		中間年度 (平成 27 年度)	目標年度 (平成 32 年度)
潮干狩り入場者数 ★1	138,140 人 ★2	維持	維持
市民一人当たりの都市公園面積	2.84 m ² /人		5.0 m ² /人 ★3 (当面の目標水準)

- ★1 潮干狩り入場者数は、有料入場者数（開催期間は4月～6月）を示します。
- ★2 潮干狩り入場者数の現状値は、平成 21 年度の実績値です。
三番瀬クリーンアップ参加延人数は、年度ごとに変動が大きいため、現状値は直近の過去3年の平均としております。
- ★3 船橋市緑の基本計画では、目標水準を 9.0 m²/人としていますが、当面の目標水準としては 5.0 m²/人です。

良好な生活空間の保全

進行管理指標	現 状 (平成 21 年度)	数値目標	
		中間年度 (平成 27 年度)	目標年度 (平成 32 年度)
風致地区指定面積 ★	508.3ha	維持	維持

- ★ 第3章（環境の現状と課題）の47ページの表3-3-3に風致地区の指定状況について記載しております。

[未来に向けた地球環境の保全] 分野

地球環境の保全

進行管理指標	現 状 (平成 21 年度)	数値目標	
		中間年度 (平成 27 年度)	目標年度 (平成 32 年度)
市民一人あたりの温室効果ガス排出量の削減目標値	8.8t-CO ₂ (1990 年度実績)	1990 年度比 10%削減	★ 1
市の事業による温室効果ガスの排出量	199,392t-CO ₂	★ 2	★ 2
緑のカーテンコンクール応募件数	64 件	100 件	200 件
地球温暖化防止推進員派遣回数	4 回	20 回	30 回
地球温暖化に関する環境講座実施回数 ★ 3	14 回	20 回	30 回

- ★ 1 地球温暖化対策地方公共団体実行計画（区域施策編）の中で作成予定。
- ★ 2 地球温暖化対策地方公共団体実行計画（事務・事業編）の中で作成予定。
- ★ 3 出前講座の実施回数。

低炭素社会の形成

進行管理指標	現 状 (平成 21 年度)	数値目標	
		中間年度 (平成 27 年度)	目標年度 (平成 32 年度)
駐輪場への駐輪可能台数	38,041 台	39,000 台	41,000 台
市内における太陽光発電システムの設置総 kW 数	817kW ★ 1	実行計画の中で策定	実行計画の中で策定
公民館への太陽光発電システムの導入館数	0 館	2 館	★ 2
小中学校への太陽光発電システムの導入校数	0 校	8 校	★ 3

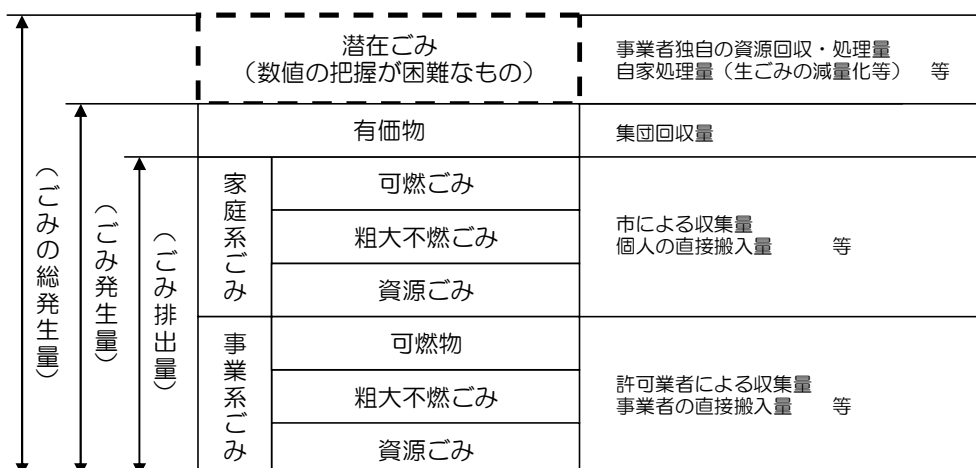
- ★ 1 市内における太陽光発電システムの設置総 kW 数は、現状値欄に平成 20 年度実績値を記載しております。
- ★ 2 社会教育施設の建替に伴い導入予定。
- ★ 3 試行的導入のため、中間年度以降は未定。

循環型社会の形成

進行管理指標	現状 ★1 (平成17年度)	数値目標	
		中間年度 (平成28年度)	目標年度
ごみ発生量	247,223t	235,676t	★2
ごみのリサイクル率	21.2%	26.2%	★2
最終処分量	14,335t/年	12,748t/年	★2

- ★1 本表の現状値は、現一般廃棄物処理基本計画が策定された平成17年度の値です。
 なお、第3章（環境の現状と課題）の53ページの図3-4-3に平成11～21年度のごみ発生量、54ページの図3-4-4に平成11～21年度の最終処分量、リサイクル率の推移について記載しております。
- ★2 目標年度は、平成22～23年次に現一般廃棄物処理基本計画の改定作業があるので、その際、設定される予定。

★ ごみの内訳



[協働による環境保全への取り組み] 分野

環境学習・環境教育の推進

進行管理指標	現 状 ★2	数値目標	
		中間年度 (平成27年度)	目標年度 (平成32年度)
環境に関する講座の参加延人数 ★1	2,212人	2,300人以上(毎年度)	
環境フェア来場者数	4,766人	4,800人(毎年度)	

★1 環境に関する講座の具体的内容

- ・環境に関する出前講座、訪問学習、環境学習講座
- ・公民館で実施する環境に関する講座

★2 環境に関する講座の参加延人数、環境フェア来場者数は、年度ごとに変動が大きいいため、現状値は直近の過去3年の平均としております。

環境保全活動の推進

進行管理指標	現 状 (平成21年度)	数値目標	
		中間年度 (平成27年度)	目標年度 (平成32年度)
こどもエコクラブ登録団体数	8クラブ	増加(毎年度)	
エコアクション21の認証・登録事業者数	12件	増加(毎年度)	